# OVM\*に基づくマルチテナントSaaSの 可変性モデルの提案と評価

青山 幹雄\*, 勝 崇†, 黒野 望†
\*南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科
†南山大学 大学院 数理情報研究科
miko.aoyama@nifty.com
www. nise.org

We are NISE: Network Information and Software Engineering 2011年11月24日

## シナリオ

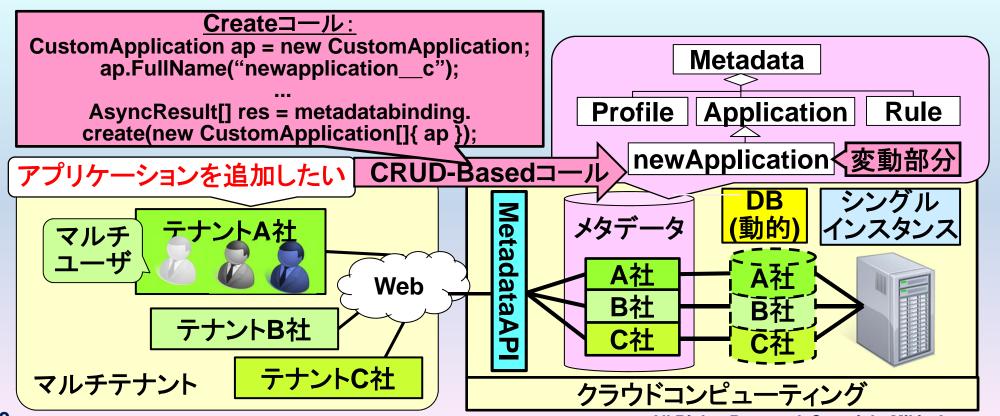
- ☞対象: マルチテナントSaaSのメタデータ駆動アーキテクチャ
- ☞課題: メタデータ駆動アーキテクチャSaaSの可変性
- ☞関連研究
- ☞アプローチ
- ☞メタデータAPIに基づく可変性のモデル化
- ☞ Salesforce.com CRMへの適用と評価
- ☞今後の課題
- ずまとめ



#### マルチテナントSaaSのメタデータ駆動アーキテクチャ

#### グクラウドコンピューティングの本質: 共用(≠共有)

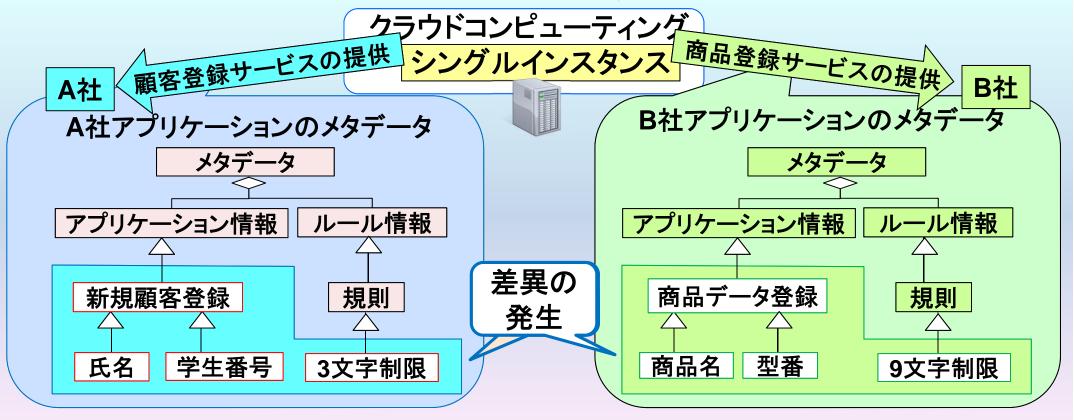
- ₫ マルチテナント: 複数テナントが同一アプリケーションを共用
- ⊌ シングルインスタンス: アプリケーション(インスタンス)が単一
- ☞ 多様なユーザ要求の実現: メタデータ駆動アーキテクチャ



## メタデータ駆動SaaSアプリケーション開発の課題

#### ☞アプリケーションへの要求多様化の実現: CRMなど

- ₫ メタデータ定義の正当性/妥当性の確認が困難
- ☞メタデータ駆動アーキテクチャの可変性モデル

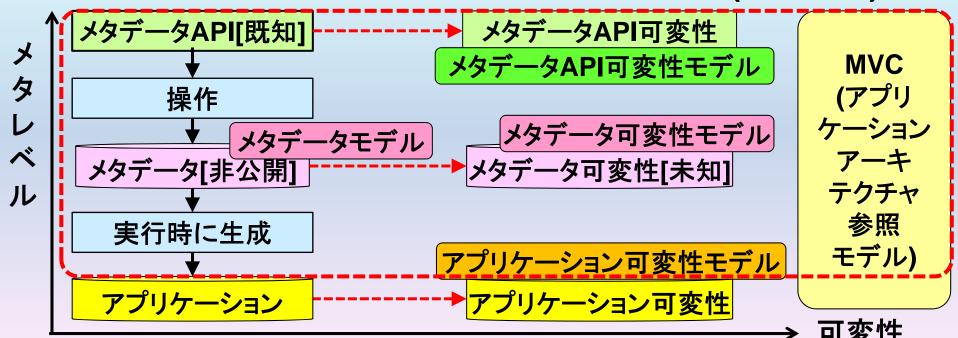


## メタデータ駆動アーキテクチャSaaSの可変性モデル アプローチ

#### ☞課題分割: メタデータAPIから可変性モデルへ

#### ☞アプローチ: プロダクトライン可変性モデルの拡張

- ₫ メタレベル可変性: メタデータ可変性とアプリケーション可変性
- 動的可変性: APIにより実行時に可変性を操作(≠設計時)



## 関連研究

#### ☞ SaaSの可変性モデルとその開発方法[1]

- ♂提案: SaaSの可変性モデル開発の提案
  - ♥OVMによるモデル化の提案
- ♂課題: 構成メタデータの可変性は示していない

#### プロダクトライン可変性メタモデル[2]

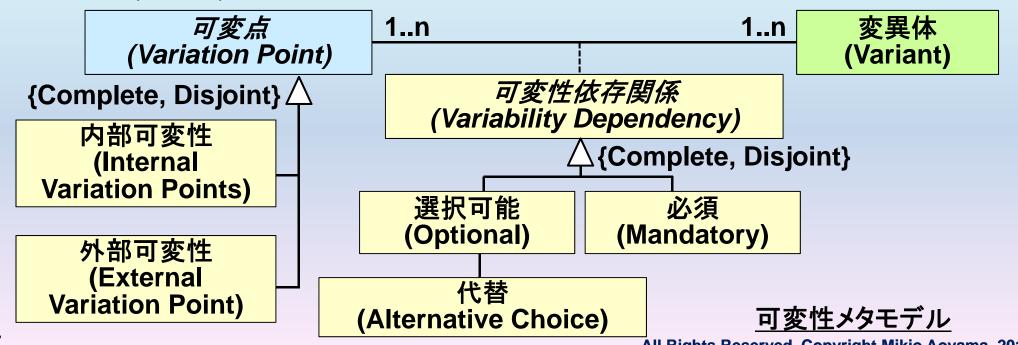
- √ 提案: プロダクトライン可変性のモデリング規則
  - 炒特定問題領域に対する適用可能な規則,制限

[1] R. Mietzner, et al., Variability Modeling to Support Customization and Deployment of Multi Tenant-Aware Software as a Service Application, Proc. of PESOS, May 2009, pp. 18-25.
[2] K. Pohl, et al., Software Product Line Engineering, Springer, 2005.

#### 関連研究

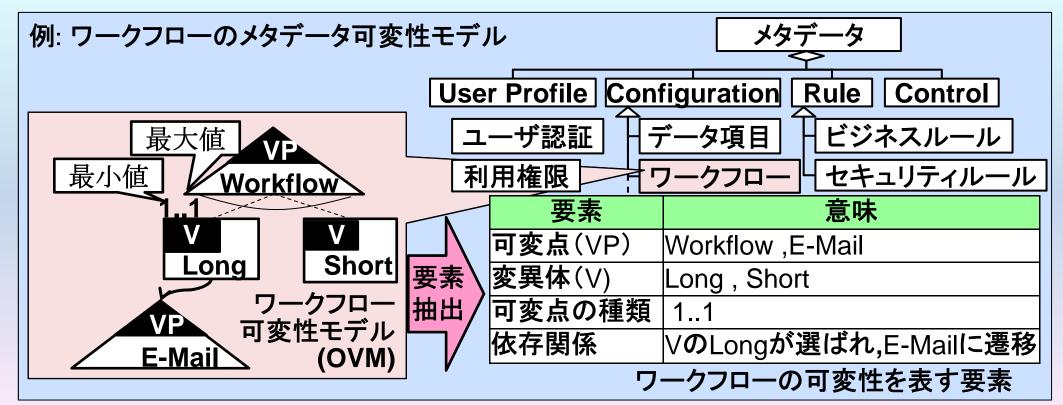
## 可変性メタモデル: 直交可変性モデル(OVM)

- ☞直交可変性モデル(OVM: Orthogonal Variability Model)
  - 可変性をプロダクトと独立して定義
    - ♥可変点と変異体
  - 可変性をプロダクトへマッピング: フィーチャモデル, ユースケースなど
- ☞可変性依存関係: 可変点と変異体との関係を定義[関連クラス]
  - ⊌ 必須,選択,代替



## メタデータAPIに基づく可変性のモデル化(1/6) モデル化の考え方

- ☞メタデータの可変性モデルをメタデータAPIから生成
- ♥OVMによるプロダクトライン可変性概念のメタレベル拡張
  - 可変性:変動する可能性を持つ性質
  - 可変点(VP)とその種類,変異体(V),依存関係のOVMによる表現



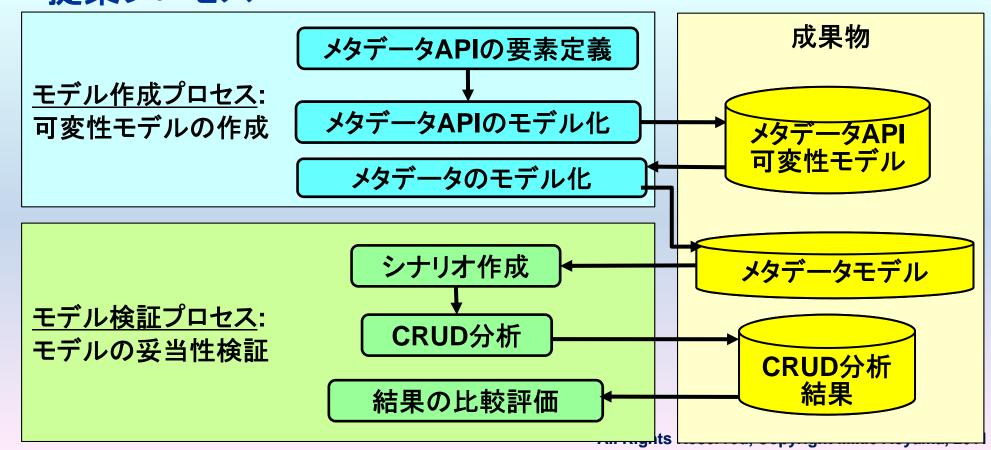
## メタデータAPIに基づく可変性のモデル化(2/6) モデル化のプロセス

#### ☞メタデータAPIよりメタデータのバリエーションモデルを生成

#### 前提条件:

- ・メタデータAPIの種類: CRUD-Based コール
- ・対象アプリケーション: CRM(顧客管理), ワークフロー管理

#### ☞提案プロセス



## メタデータAPIに基づく可変性のモデル化(3/6) メタデータAPIからメタデータAPI可変性モデルの生成

☞例: CRMの機能オブジェクトの可変性モデル作成

メタデータAPIの操作対象定義

機能の追加変更を定義するメタデータ

MVC(Model View Control)をアプリケーションアークテクチャ参照モデルとして利用

⇒ Model, View, Controlに基づきメタデータAPIの操作対象要素を定義

Model

識別子 :機能オブジェクトを一意に識別するデータ

データ項目:機能オブジェクトの中で扱うデータの範囲を決定

View

表示ラベル:機能オブジェクトのユーザに見える名称

ボタン :編集や新規作成させるなどの一般的なボタンの名前指定

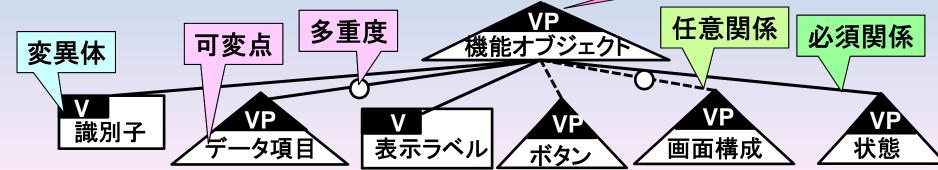
Control

画面構成:画面構成はデータ項目などの表示項目の配置

状態 :オブジェクトの状態を指定

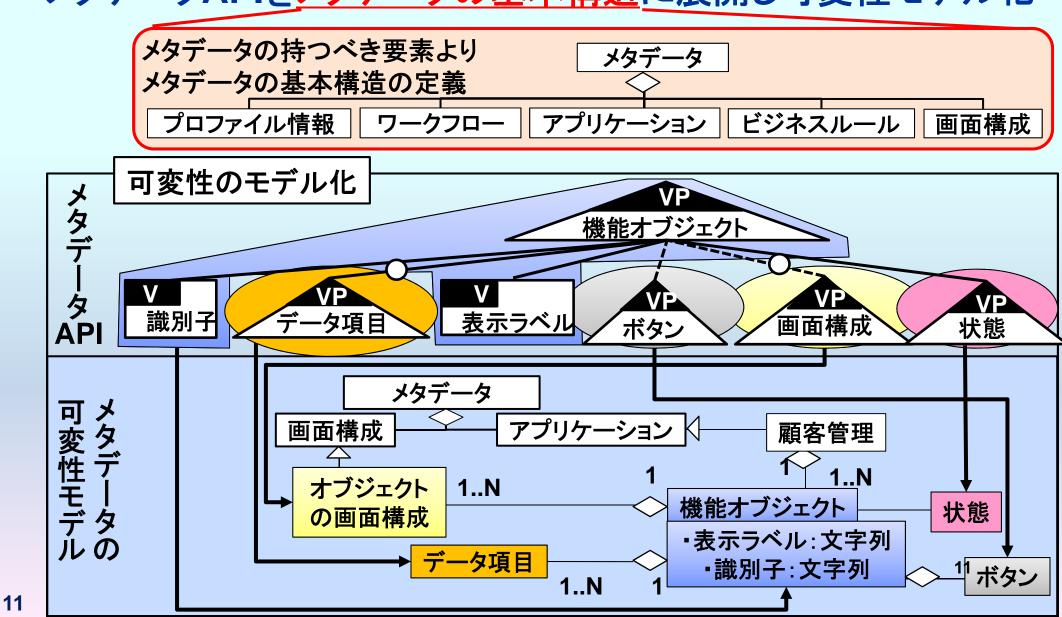
メタデータAPI可変性モデル: OVMによるモデル化

アプリケーションの 可変点(VP)



## メタデータAPIに基づく可変性のモデル化(4/6) 可変性のモデル化

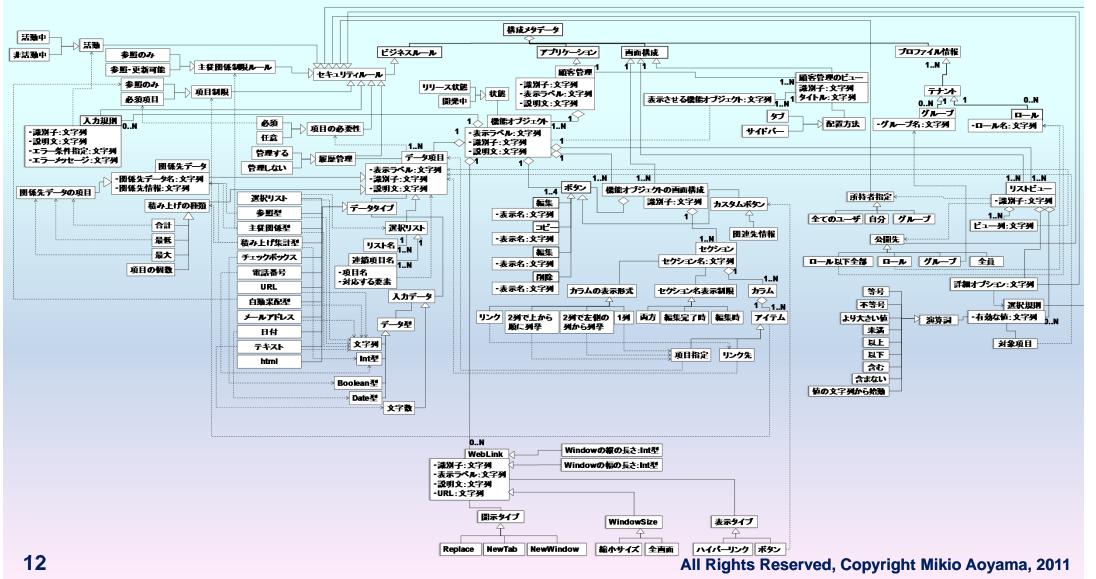
#### ☞メタデータAPIをメタデータの基本構造に展開し可変性モデル化



## メタデータAPIに基づく可変性のモデル化(5/6) メタデータモデル

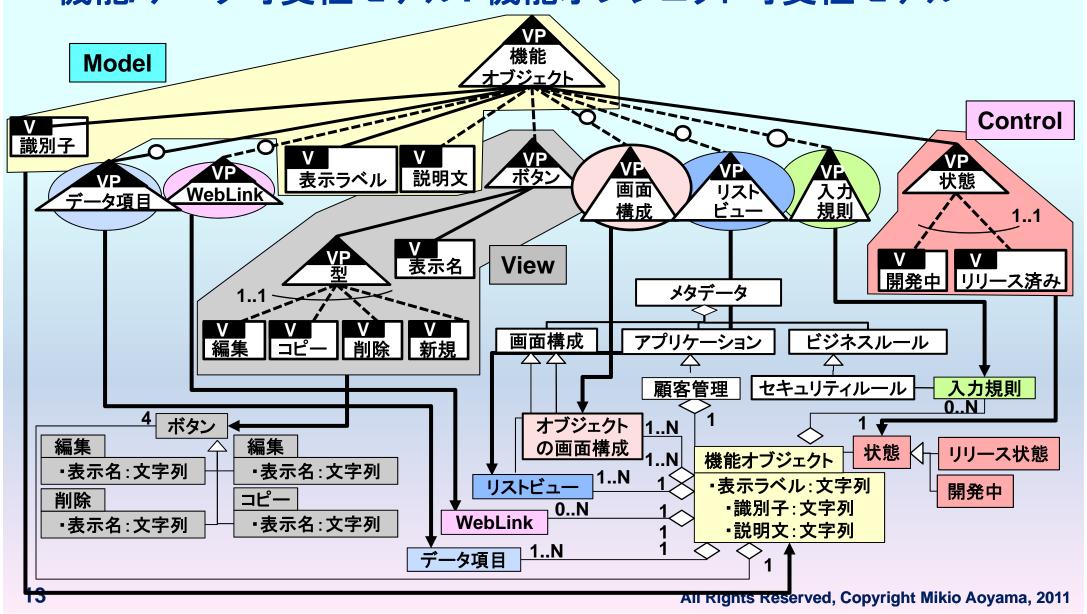
#### **♥CRMのメタデータAPIから特定したメタデータの構造モデル**

● データ項目:36 関連:115 依存関係:41 ボタン:4 画面構成:15



## メタデータAPIに基づく可変性のモデル化(6/6) メタデータAPIとメタデータモデルからメタデータ可変性モデル化

☞機能/データ可変性モデル:機能オブジェクト可変性モデル



## Salesforce.com CRMへの適用と評価(1/7) 目的と評価方法

#### **季目的**

- ☞評価対象SaaSシステム[2010年10~12月]
  - Salesforce.com CRM
    - **♥シングルインスタンス/マルチテナント**
    - ♥メタデータ駆動アーキテクチャ
    - ♥CRUD-BasedコールメタデータAPI:19種(31個のメタデータ)\*

#### ☞評価プロセス

- ₫ (2)カスタムアプリケーション開発に必要な機能の抽出
- √ (3)アプリケーション開発で利用したメタデータAPIの可変性を特定
- 喇 (4)CRUD分析による可変性モデルの網羅性評価

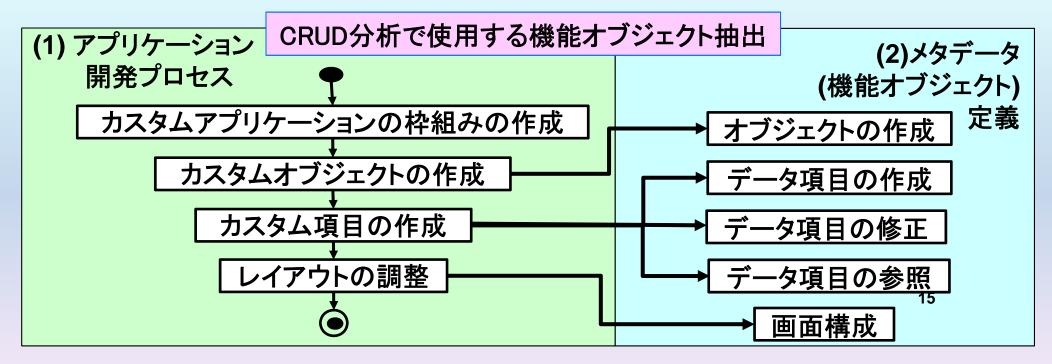
\*参考文献: Salesforce.com, Metadata API Developer's Guide, Ver. 20.0, Oct. 2010. 14 最新版はVer. 23.0, Oct. 2011. All Rights Reserved, Copyright Mikio Aoyama, 2011

## Salesforce.com CRMへの適用と評価(2/7) カスタムアプリケーション作成

#### ☞2種類のカスタムアプリケーション\*の分析

- **♂ CRM\*\*: 出張申請アプリケーション**
- ワークフロー管理: 出張申請の承認

#### ププリケーション開発⇒メタデータ定義⇒CRUD分析



\*参考文献:阿部 友暁, ほか, Force.com クラウドアプリケーション開発, インプレスジャパン, 2010.
\*\*CRM: Customer Relationship Management All Rights Reserved, Copyright Mikio Aoyama, 2011

## Salesforce.com CRMへの適用と評価(3/7) カスタムアプリケーション作成におけるメタデータ利用

## ☞アプリケーション作成で利用(操作)したメタデータ要素の分析

◆ 25個中12個⇒モデルが表現できているか網羅性分析⇒CRUD分析

CustomObject の要素: 25個   actionOverrides   businessProcesses   customHelp   customSettingsVipe   customSettings	刀作	UU			工厂	州勺 术性				い衣も	ロマモナルが	╝ <del>┞╵</del> ╹╱╙	<b>25 E</b>	
作成   修正   参照   回回構成   作成   オブジェクト指定   割当   年成   イブジェクト指定   割当   年成   イズジェクト指定   目成   イズジェクト指定   イズジェクトに   イズジェクト指定   イズジェクトに   イズジェクトに   イズジェクトに   イズジェクト指定   イズジェクトに   イズジェクト指定   イズジェクトに   イズジェクト指定   イズジェクト指定   イズジェクト指定   イズジェクト指定   イズジェクト指定   イズジェクトに   イズジェクトに   イズジェクトに   イズジェクトに   イズジェクト指定   イズジェクトに   イズジェクルに   イズジェクトに   イズジェクル			<u> </u>	承認フ			<u>F成</u>							
CustomObject の要素: 25個	画面構成編集	有効化				画面構成								
CustomObject の要素: 25個  メタデータ APIの 操作対象 メタデータ Workflow  CustomObject の要素: 25個  CustomObjec	R					R				С	actionOverrides			
CustomObject の要素: 25個  メタデータ APIの 操作対象 メタデータ Workflow  CustomObject の要素: 25個  CustomObject の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表											businessProcesses			
CustomObject の要素: 25個  メタデータ APIの 操作対象 メタデータ Workflow  customObject の要素: 25個  customSettingsType customSettingsVisibility deploymentStatus											customHelp			
の要素: 25個  メタデータ APIの 操作対象 メタデータ Workflow  CustomObject											customHelpPage		Custom	
の要素: 25個  メタデータ APIの 操作対象 メタデータ Workflow  CustomSetInyStatus C description C R R R R R R R R R R R R R R R R R R											customSettingsType	Object Object		
APIの											customSettingsVisibility			
### CustomObject										С	deploymentStatus	: 251回	の安系	
メタデータ APIの 操作対象 メタデータ Workflow  enableEnhancedLookup enableFeeds C enableHistory C enableReports C U R R R fullName C R R R fullName C R R R R R R R R R R R R R R R R R R	R					R				С	description			
メタデータ APIの Public CustomObject CustomObjec										C	enableActivities			
APIの Workflow  CustomObject  enableHistory C											enableEnhancedLookup	7		
APIの 操作対象 メタデータ  Workflow  fields										С	enableFeeds			
APIの 操作対象 メタデータ  Workflow  fields										С	enableHistory		<b>ゴ</b> ―ゟ	
APIO) 操作対象 メタデータ  Workflow  fullName gender label C listViews C nameField pluralLabel sharingModel sharingReasons startsWith										С	enableReports	CustomObject	<b>アダナータ</b>	
操作対象 メタデータ  Workflow  Workflow  gender  abel	R					R	R	U	С		fields			
操作対象 メタデータ   abel	R					R_		R	R	C	fullName			
メタデータ   IlstViews C   nameField   L C   L L L R L R L R L R L R L R L R L R L											gender			
メタデータ   Ist Views C   name Field   C   L   L   R   R   R   R   R   R   R   R										С	label			
Workflow  Workflow  pluralLabel sharingModel sharingReasons startsWith										С	listViews			
Workflow    SharingModel   SharingReasons   StartsWith   SharingReasons   StartsWith   SharingReasons   Shar	R					R	R				nameField		デ―タ	
Workflow sharingReasons startsWith											pluralLabel		, ,	
VVOFKTIOW											sharingModel			
o can corrier											sharingReasons	flow	Mark	
											startsWith			
の要素: 6個 validationRules validation Rules											validationRules		の要素	
webLinks											webLinks		७७ द्वारः	
alerts C			С										Wor	
fieldupdates											fieldupdates			
Workflow fullname											fullname	Workflow		
outboundmessages											outboundmessages	WOLKLIOM		
rules C U U U	R		_								rules			
All Rights Reserved, Copyright Miklo			С								tasks		L	
16 All Rights Reserved, Copyright Miklo	AC	MIKIO	/right	served, Copy	ts Res	All Righ								

2011

# Salesforce.com CRMへの適用と評価(4/7) Salesforce CRMのメタデータAPIからメタデータのモデル化

#### ☞モデルの要素と対応するAPIの要素を抽出

#### ☞モデルとSalesforce CRMの対応づけ

♂ モデル: 機能オブジェクト

Salesforce CRM: CustomObject

提案モデルとSalesforce CRMの対応表

モデル (機能 オブジェクト)	Salesforce CRM メタデータAPI (CustomObject)	要素の説明
識別子	fullName	カスタムオブジェクトの識別子
データ項目	fields	データ項目の要素
アータ項目	nameField	カスタムオブジェクトが必ず持つべきデータ項目を示す要素
ボタン	actionOverrides	オブジェクトで使用するボタンを編集する要素
画面構成	なし	データ項目の配置などを扱う要素
状態	deploymentStatus	デプロイ状態を示す要素(開発中かリリース済みか)

データ項目: fields, nameFieldの両方の情報を表現

## Salesforce.com CRMへの適用と評価(5/7)

評価1: CRUD分析によるモデル網羅性評価

## ☞ モデルとメタデータAPIとのCRUD分析比較 メタデータAPIの対象

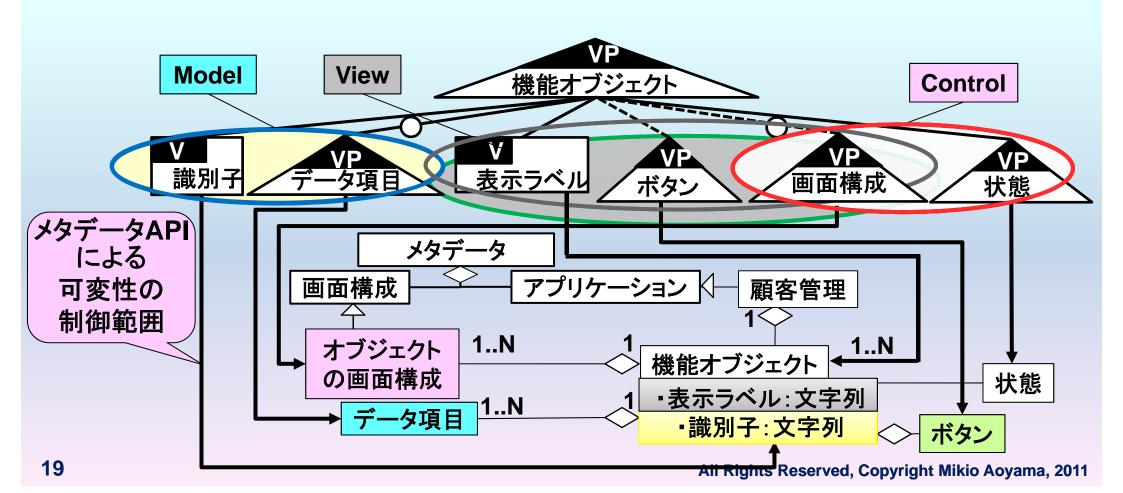
	CRUD分析表									
	ユースケース/ ユースケース: 出張申請アプリケーション 機能 オブジェクト データ項目 データ項目 データ項目 データ項目 データ項目									
	機能	オブジェクト	データ項目	データ項目		画面構成				
_	データ要素	作成	作成	修正	参照	凹凹消水				
_ / / / / / /	識別子	С	R	R	×	R				
	fullName	С	R	R	×	R				
	データ項目	С	С	U	R	R				
	nameField	С	×	U	R	R				
要素	fields	×	С	U	R	R				
と -	ボタン	С	X	×	×	R				
APIの 要素とを 対比	actionOverrides	С	エデル	(	R					
	画面構成	C		機能オブジェ メタデータAP	I	U				
		×	(Custo	om Object)	で差異	×				
	状態	С	×	×	×	×				
	deploymentStatus	С	×	×	×	×				
18										

モデル(機能オブジェクト)がメタデータAPIの対象メタデータを網羅することの確認

## Salesforce.com CRMへの適用と評価(6/7)

評価2: 可変性モデルの評価

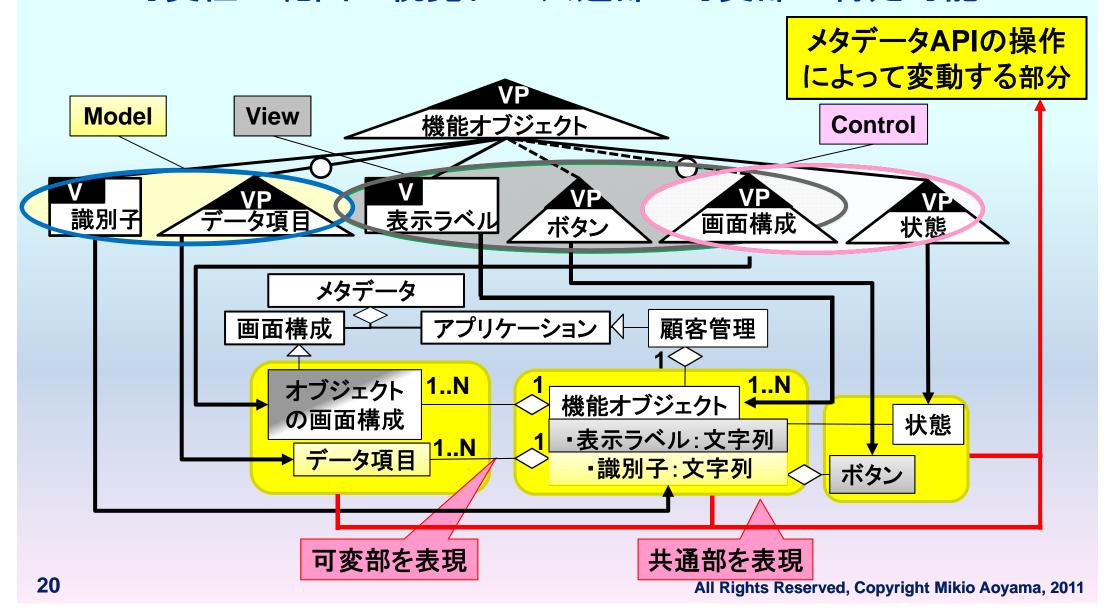
#### 



## Salesforce.com CRMへの適用と評価(7/7)

評価3: 可変性範囲の視覚化

#### ☞ 可変性の範囲の視覚化⇒共通部と可変部の特定可能



## 今後の課題

#### ☞メタデータ駆動アーキテクチャの理解の深化

- 可変性モデルの深化: OVM/フィーチャモデル

#### ☞メタデータモデルとその可変性モデルの自動生成

- 動的な可変性モデルの生成

#### ☞メタデータ駆動アプリケーションの可変性開発

- ●メタデータ駆動に基づく開発方法
- ●メタデータ設計

#### ☞適用拡大

## まとめ

#### ☞研究対象と研究課題課題

#### ☞モデルとモデル化方法

#### ☞ Salesforce.comへの適用と評価

- ●効果
  - ♥モデルの要素の妥当性確認
  - ♥メタデータのモデル化とその可変性の理解向上
  - ♥メタデータAPIによるアプリケーション可変性の理解向上